

新潟県における ネコの コリネバクテリウム・ウルセランス (*Corynebacterium ulcerans*) 保有状況調査

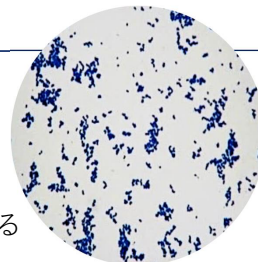
新潟県保健環境科学研究所
細菌科
池田たま子

本日の内容

- コリネバクテリウム・ウルセランス（ウルセランス菌）感染症とは
- 調査研究の目的と方法・検体について
- 検査結果について
- まとめ他

1 ウルセランス菌とは？

- ▶ グラム陽性短桿菌
- ▶ 牛や馬などの家畜の常在菌で、古くから牛の乳腺炎・関節炎等を引き起こす細菌として知られる
- ▶ *Corynebacterium diphtheriae*（ジフテリア菌）に性質に近い
- ▶ **ウルセランス菌感染症は、感染症法の届出対象疾患ではない**（ジフテリアは二類感染症）
- ▶ 動物（犬・猫ほか）→ 人へと感染する「**動物由来感染症**」



グラム染色 (x1000)
厚労省HPより抜粋

2 呼吸器症状を示す症状

- 呼吸器系の症状の割合が高い（全症例の**約70%**）
- **中高齢者**に多い（平均64歳：54歳～）
- **重症化**しやすい
- 死亡することもある



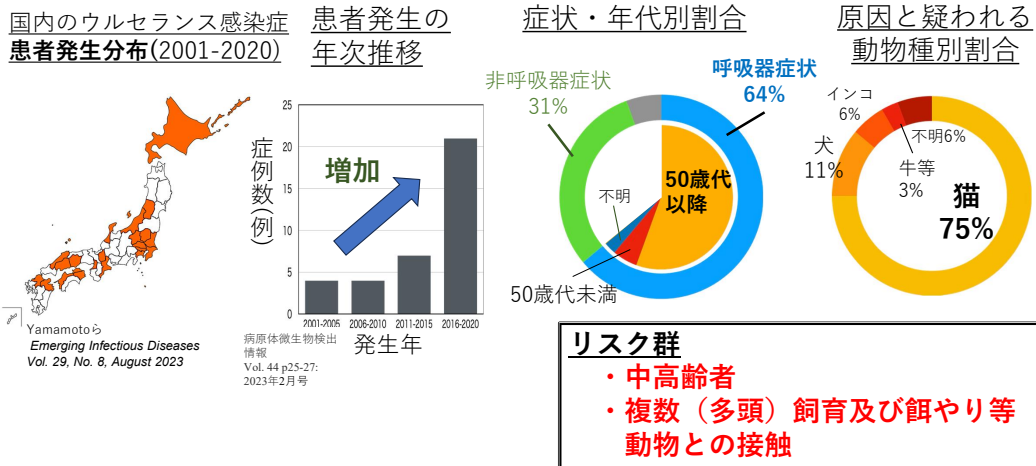
3 呼吸器症状以外の症状

- ・ 非呼吸器症状の割合 (全症例の約30%)
- ・ 比較的若い年齢で発生 (平均38歳:21~61歳)
- ・ 軽症~中等症が多い



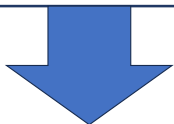
4 国内のウルセランス菌感染症の患者報告について

36症例 (死亡2症例) (2001~2020年)



5 新潟県内のウルセランス菌感染症の患者報告

患者: 70代 女性
 症状: 重篤な呼吸器症状
 菌の検出: 患者の喀痰等からウルセランス菌を検出
 動物飼養: 猫 2頭(屋内・屋内外)



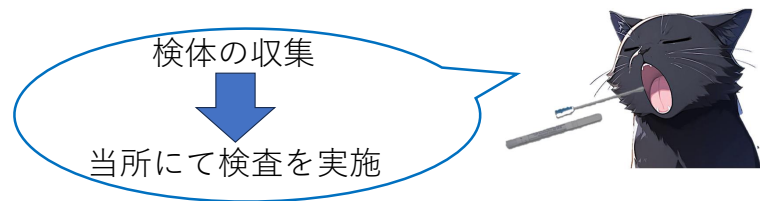
当所にて、飼養猫についてウルセランス菌の検出を試みたが、

検査結果は「陰性」であった



6 研究の目的

- ウルセランス菌の検査法を整備し、県内の猫における同菌の保菌状況を把握する
- ヒトや動物への感染予防対策の一助とする



7 検査対象動物及び検体採取

●検体（対象動物と採取部位）

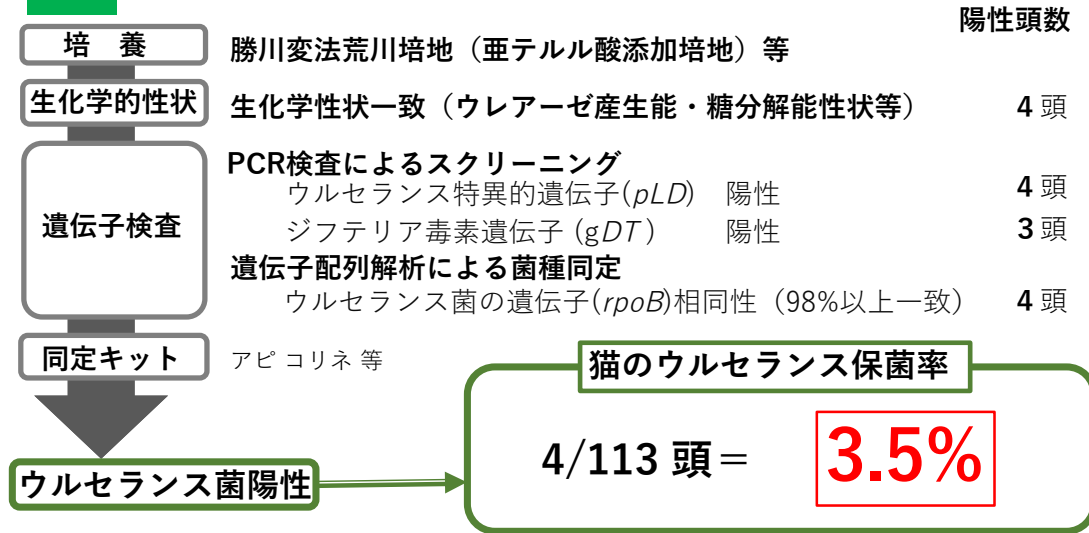
対象動物	検体
猫	口腔内・咽頭ぬぐい液、鼻汁、傷口の膿汁等

●検体採取施設

施設名	検査頭数
新潟県動物愛護センター	67頭
上越動物保護管理センター	
下越動物保護管理センター	
新潟市動物愛護センター	
新潟県内協力病院 (新潟県獣医師会「ワンヘルスに関する調査・研究の支援」)	46頭
合計	113頭

8 検査方法と結果

*大阪健康安全基盤研究所の検査方法を一部改変



9 まとめ：動物（猫）について

- 新潟県内の猫のウルセランス菌保有率は、**3.5%**であった
この結果は、全国のデータ（0%～8.2%）と差は無かった
- ウルセランス菌は、**野外・屋内外飼育、複数（多頭）飼育等**の猫から検出された
 ➡猫を、野外と屋内を自由に入出りできる環境で飼育することは、ウルセランス菌に感染するリスクが高くなるため、**屋内での飼育を推奨**する
- ウルセランス菌は、抗生物質（マクロライド系）による除菌が可能であった

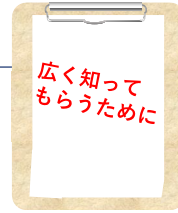
10 まとめ：人の感染予防

- 特に中高年者は、感染のリスクが高いため、動物とふれあった後は、**手洗い・うがい等を行う**
- ジフテリアワクチンは、ウルセランス菌にも効果がある
- 動物と接触が多い動愛センター等や臨床獣医師等へ情報還元することにより、ヒトと動物の感染対策の一助としたい

11 啓発

～ウルセランス菌について広く知ってもらうために～

- 1 新潟市中央図書館「ほんぽーと」にて ポスター掲示
(令和6年12月5日～1月9日)
新潟県獣医師会主催のワンヘルスの取り組みによる
- 2 令和6年度 中部地区学術学会・獣医学術中部地区学会
(令和6年9月8日新潟市)にて、口頭発表
- 3 令和6年度 新潟県新潟市食品衛生監視員・環境衛生監視員合同研修会
(令和7年2月7日新潟市)にて、口頭発表 予定
- 4 今後の予定：チラシ等の作成・配布を考えている



12 謝辞

この調査は、

新潟県動物愛護センター
下越動物保護管理センター
上越動物保護管理センター
新潟市動物愛護センター
県庁生活衛生課動物愛護・衛生係
新潟県獣医師会
新潟県内の協力動物病院

上記のみなさまには、多大なご協力をいただきました
深謝いたします

